

令和4年度 第3回学校運営協議会 議事録

1 第3回学校運営協議会概要

日 時 令和5年2月15日（水）15時～

会 場 大阪府立岸和田高等学校 会議室

学校運営協議会委員

桃山学院教育大学学長	中西	正人	様
岸城中学校校長	長岡	英晃	様
岸城幼稚園長	中	貴子	様
同窓会会長	新田谷	修司	様
P T A会長	竹村	太	様
元後援会会長	山路	明子	様

学校側参加者

校 長	植木	信博
教 頭	岸野	敏昌
事 務 長	中島	徹
首 席	田坂	太一
首 席	中野	健一
進路指導部長	長谷川	武央

2 次第

（１）はじめに（司会：教頭）

1 校長挨拶

- ・お忙しい中、ご出席いただき感謝申し上げます。今年度の取組みについて報告させていただく。私自身は13年ぶりの学校現場であり、分からないことも多くあったが、ここにいる先生方をはじめ、すべての先生方のおかげで何とかここまで進めてくることができた。本校の教員は皆、熱心で、よく頑張ってくれている。感謝している。
- ・第1回の学校運営協議会において、本校は様々な取組みを行っているが、それぞれの取組みが成果をあげているのだろうか、ただ例年どおり行っているということではないのだろうかと思っていると話しをさせていただいた。その考えから、第2回の学校運営協議会で話しをさせていただいたとおり、各分掌や学年で行っている行事や取組みについて、その目的は、これまでの成果と課題は、そして、その成果と負担について検証し、来年度の方針はどうするのか検討するよう指示してきた。
- ・その検証を踏まえ、一例をあげると、来年度からの朝読の時間（朝の読書15分間）は廃止することにした。もちろん、読解力を付けることは重要で、読書の時間は大事だが、生徒一人ひとりがその貴重な15分をどのように使うかを自分で考えればよいと思っている。本校は木曜日を除き7限授業のため放課後が短い。8時30分から授業を始めると現在より10分早い16時に授業が終わる。そのことで、平日の放課後にも講習が可能になるかもしれない。生徒の最終下校時刻は変更しないが、部活動による延長は現在の45分間から30分間とする。タイムマネジメントはとても重要で、その15分をいかに活用するかを生徒にしっかりと考えてもらいたい。

- ・第2回の学校運営協議会で報告したとおり、「リーディングGIGAハイスクール」に応募した。その結果、本校はアドバンスクラス（先進クラス）に指定（3年間）されることになった。その指定によって、すべての普通教室にプロジェクターと黒板がこの2月末に配備される。当初は「ゆめ基金」3年計画でプロジェクターを更新する予定で、まずは345万円の寄附を募った。その結果およそ620万円寄附いただいた。そのうち約350万円を展開教室のプロジェクター更新に活用し、残りはグローバルリーダー育成に活用することにした。

2 学校運営協議委員挨拶

桃山学院教育大学学長 中西 正人 様

2013年に大阪府を退職。2023年3月に退職後10年を迎える。3月で学長を退任するが、和泉市の教育委員は継続する。高校生の教員養成系大学への希望者は減っている。大分県で教員採用試験の実質倍率が過去最低となったニュースがあった。超過勤務がクローズアップされることが多く、保護者が子どもを教員にさせたがらないなど、職業として教員を選択することが社会的に逆風の状況にある。小学校35人学級を実現するなど、教育環境の改善を進めてもらいたい。

岸城中学校校長 長岡 英晃 様

前回の学校運営協議会で定員割れの学校が増え、「勉強しなくても高校に入れる」と考える生徒がおり苦慮していると話しをした。面接練習で中学生に将来の夢を尋ねると、「まだ夢が見つかっていない」と答える生徒が多い。教員には、教育活動を通して生徒が将来の夢を持てるよう指導することをお願いしている。生徒が将来に向けたビジョンを持てるようなキャリア教育をしたいと考えている。

岸城幼稚園長 中 貴子 様

幼稚園はまとめの時期に入っており、最近は生活発表会をしている。3学期の岸和田高校生との家庭科保育実習での交流では、第2グラウンドで一緒に遊んでもらった。最初は体の大きい高校生を怖がる園児もいたが、回を重ね、慣れてきた様子だった。高校生にとっても園児に説明することは難しく苦慮していたが、言葉を選び、説明の手順を考えながら懸命に説明していた。高校生にとっても良い教育の場になっていると感じることができたので、互いに良い交流になったと考えている。

同窓会会長 新田谷 修司 様

岸和田高校同窓会では、岸和田高校の進学実績が下がっているのではという意見が出てくることがある。グローバルリーダー養成に「ゆめ基金」を活用できるようにして、1ヶ月くらいの海外短期留学を援助し、「岸和田高校に入学すれば海外留学を援助してもらえ」ということが広まり、岸和田高校の人气が高まるようになればいいと考えている。

P T A会長 竹村 太 様

現3年生の75期生はコロナ禍で始まり、そのままコロナ禍で終わってしまった。貴重な高校生の時期に非常にかわいそうな思いをさせてしまったと思うが、それでも子どもたちは岸和田高校で楽しく過ごさせてもらったと感じている。

なかなか将来の夢がはっきりとしない生徒がいるのは仕方ないが、課題研究などで自分の興味・関心と向き合うことが将来のことを考えるきっかけになれば良いと思っている。

元後援会会長 山路 明子 様

自分自身が開催しているヨガ教室では「なりたい自分」をイメージしましょうと言っている。良いイメージをすることが自身の健康に影響すると考えている。朝読廃止の代わりに、Google社やアップル社が早い時期から取り入れていた1分間の瞑想をさせてみても良いのではないかと思う。

(2) 協議

① 学校教育自己診断の結果（校長より）

【報告】

今年度実施した学校教育自己診断の結果について、特徴的な項目のみ話をさせていただく。まずは、教職員の結果から。

- ・「2 学校経営に校長のリーダーシップが発揮されている。」は96.4%という高い値であった。初年度ということもあると思うが、私にとっては高すぎるイメージである。
- ・「4 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている。」も83.9%と、値が大きく伸びた。これは先ほどお話ししたとおり、行事に関する検証を進めてきた成果だと考えられる。
- ・「6 学校は、公開授業期間や研修などを通じて、指導方法の工夫・改善に努めている。」も98.2%となった。公開授業期間や授業力向上研修などにより、授業改善への意識が高まってきたことによるものと考えられる。

次に、生徒の結果について。

- ・「3 岸和田高校での授業に満足している。」が87.7%と上昇した。授業アンケートの結果も伸びていることから、教員の授業改善に向けた取組みの成果だと考える。
- ・「6 岸和田高校は、課題研究をはじめとする探究的な学習や、関連行事など特色ある教育活動が行われている。」は92.7%ではあるが、この3年間で課題研究の結果が下がってきている傾向にある。この要因については検証していかなければならないと感じている。
- ・「7 岸和田高校での授業やさまざまな活動において、1人1台端末を積極的に活用している。」は新規項目であり、目標を75%にしていたが、結果は89.0%であった。特に1年生では95%ぐらいの数値であった。それに比べると3年生は低い数値であったが、大学受験に向けた演習なども多くあり、1人1台端末を活用した授業がイメージしにくい点が影響していると考えられる。
- ・「10 土曜日の午前中は自学自習や学校の講習・千亀利セミナー等に参加するなど、学習時間として活用している。」の数値が49.0%となり、この項目については3年連続で低下している。このことについては、来年度に向けて改善方策を考えたい。

最後に、保護者の結果について

- ・「2 岸和田高校では、学校経営に校長のリーダーシップが発揮されている。」が79.1%と大きく値を下げてしまった。今年度を振り返ると確かに、保護者の前で話をする機会が少なく、校長としての存在感はないだろうと感じている。
- ・「12 岸和田高校は、メールサービスやホームページ、校長ブログ等を利用して教育活動をわかりやすく伝えている。」についても91.9%ではあるが、昨年度から値を下げてしまった。校長ブログの更新回数が減ったことも影響していると考えている。

全体を通して感じるのは、生徒と保護者の評価が概ね一致していること。家庭で保護者と子どもが学校の話をしていることが予想できる。

自由記述については、ロッカーの設置を希望する声が多くあり、設置に向けて検討中ではあるが、設置場所など課題が多くある。また、休日における体操服・ジャージ登校についても要望があり、自治会執行部役員などと調整中である。

【質疑応答】

- (委員) (中西様) 校長のリーダーシップについて教員と保護者で違いが大きかった理由は。
- (学校) (校長) 来年度はPTA総会を集合形式に、他も校長が出席し挨拶するようにしたい。
- (委員) (新田谷様) 保護者アンケートの回収率は。
- (学校) 70%程度である。
- (委員) (竹村様) 75期生は今年度初めてPTA行事があり、参加した保護者は喜んでいた。
- (学校) (校長) 来年度はできる限り、コロナ禍以前の状況に戻していきたい。

② 令和4年度学校経営計画（校長より）

【報告】

- ・学校経営計画については、第1回学校運営協議会でお話ししたとおり、4月に校長となり、学習指導要領の内容を踏まえシンプルにすること、目的を明確化することをめざし修正したところ。
- ・学校運営協議会からの意見の空白は本日の意見を記述する。多くの意見をいただきたい。
- ・本年度の取組内容及び自己評価については、先ほど説明させていただいた学校教育自己診断の結果を反映して記述している。
- ・「土曜日午前中の学習活用」「岸高手帳の活用」が低い。「1人1台端末の活用」をはじめ、授業に関する評価は高くなった。「ハイレベル講習」「岸高スーパークラス」も高くなった。「部活動」や「学校行事」も高くなった。教育相談はうまく機能していると考える。

【質疑応答】

- (委員) (中西様) 土曜午前の学習タイムの低下について。受けられる講習の状況はどうか。
- (学校) (教頭) 1年生は2学期からハイレベル講習と希望者講習を実施。2年生・3年生は希望者講習を実施。3年生はおよそ毎週希望者講習があり、参加数は10～30名程度。
- 千亀利セミナー（土曜日午前の自習）は毎週およそ60名程度。
- 自宅学習も含めて「土曜の午前は学習タイム」としているが、75期生はコロナ禍スタートで、土日に学校を解放できない時期が続いたこともあり、「土曜日の朝に学校に来てみんなで勉強しよう」と働きかけにくかった。
- (委員) (新田谷様) 土日のジャージ登校の希望に対してどう考えているのか。
- (学校) (校長) 自治会執行役員の生徒と調整しながら、検討を進めていく。多くの学校で認めていることであり、認める方向で考えてはいるが、生徒に意見の集約やルールづくりなどをさせたい。
- (委員) (長岡様) 東京方面大学ツアーやSSHサイエンスツアーに対する肯定的意見が100%と高い一方、土曜日午前中の学習の結果が低いのはなぜだと考えられるか。
- (学校) (校長) 東京方面大学ツアーやSSHサイエンスツアーについては意欲の高い生徒が希望して参加しているためアンケート結果も高くなる。
- (委員) (長岡様) 中学校では教育課程（学校の勉強）が将来の何につながるのかを生徒に説明するのが難しい。
- (委員) (中西様) GLHS10校の学び合いの機会があれば良いと思う。朝読や土曜活用についても、他の学校で先進的な取組みがあれば参考にして活かしてもらいたい。
- (学校) (校長) 月に一度GLHS校長会を行っているので、聞いてみたい。
- (委員) (中様) 千亀利セミナーはどのような場所で行っているのか。
- (学校) 普通教室で行っている。
- (学校) ジャージ登校に対してどう考えるか。
- (委員) (中様) 保護者にとってはアイロンがけが減るので有難いと思う。

(委員)(長岡様) 平日でも体育祭などの日であれば体操服登校を可能としている。休日についてはクラブジャージ・体操服でもよしとしている。

(委員)(山路様) 小学生の頃から塾に行っている子どもは、家庭以外で遊ぶ機会が少なく、色々な人との出会いや交わる機会が少ないため、将来に向けての視野が狭くなってしまっているように思っている。

岸高手帳の活用は良い取り組みだと思う。自分でスケジュールを書くことで隙間時間を有効に活用できる力が身に付くようになる。

(委員)(竹村様) OB・OG 講演会では色々な職業の方の話を聞けるので良かったと思う。

毎日の小さな目標を立てて、1日1日を無駄にしないようにしてもらいたい。子どもは保護者の話は聞かないので、学校から言ってもらえるとありがたい。

③ 令和5年度学校経営計画(案)(校長より)

【報告】

令和4年度学校経営計画については先ほどお話ししたとおり、大幅に内容を整理したため、今回大きく変更したのは「岸高学びのスタイル」の廃止と教員の「働き方改革」に関する記述の追加の2点である。なお、数値については、学校教育自己診断の結果をはじめ、令和4年度に行った調査結果などのものに更新している。

- ・1-(3)イについて、令和4年度は「岸高学びのスタイル」(各教科の目標)を記述していたが、来年度はその取組みをやめて、各教員が年2回実施する授業アンケート結果について振り返りを行い、課題を洗い出し、改善策を考え、改善されたかを検証できる「振り返りシート」を作成し校長と面談することにした。教員一人ひとりが授業改善に取り組むことを目的に、今回、変更することとした。
- ・来年度における新規項目として、新たに3-(3)を追記した。教員の「働き方改革」について項目を設け、指標を示すよう指示があった。アについては、先ほどからお話ししている行事・取組みの検証について。イは教育庁から通知があり、来年度から全校一斉定時退庁日(原則水曜日に定時退庁を行うこと。そのため、生徒は勤務時間の15分前に下校させること)を設定することとしていることを踏まえ、記述したものである。

【質疑応答】

(委員)(長岡様) 月80時間以上超過勤務している教員は何人くらいいるか。

(学校)(教頭) 4月当初は全教員約70人中20人程度。夏以降は10人程度となっている。

本校は府立学校の中でも多い方である

(委員)(長岡様) 岸城中学校は10人程度。教員に欠員が出る中でも教育活動は続くので、苦しい状況の時もある。

④ 大学入学共通テストの結果(進路指導部より)

【報告】

- ・全員が文理学科になった73期生以降で一番良い結果だった。
- ・1年生で90%だった国公立大学希望者が、3年生で70%程度になる。
- ・当初の第1希望を卒業まで貫けるように指導したい。
- ・岸高手帳の良い使い方を1年生の初期に進路指導部が中心となってレクチャーするようになりたい。
- ・1・2年で英国数の基礎学力を定着させることを目的に、スタディーサポートや模試をもっと活用させたい。
- ・本校は他のGLHS10校と比較すると上位層の人数が少ない。

- ・スーパークラスを中心に共通テスト 720 点を超える生徒を増やせる取組みができないか検討したい。
- ・共通テスト 600 点を超える生徒を増やすために、特に 1・2 年の英国数の基礎学力を上げていきたい。

【質疑応答】

(委員)(竹村様) スーパークラスを落ちた生徒もいるので、スーパークラスだけでなく普通クラスにも力を入れて欲しい

⑤ 文理課題研究発表会の報告(首席より)

【報告】

1 月 21 日(土) 午前に発表会を実施した。2 年生が取り組んでいる研究テーマについて、口頭やポスターで発表した。1 年生は来年度の研究活動に向けて 2 年生の発表を見学した。

今年の新たな取組み

- ①「プロジェクト”Nova”」に所属している生徒(1 年生)が、2 年生の最終発表と同じ場で、来年自分たちがやりたいと考えている研究テーマについて発表した。

※プロジェクト”Nova”：

科学技術に関心のある生徒 20 名を集めて、1 年次から他の生徒たちとは別のカリキュラムで、発展的な内容にチャレンジしながら課題研究を進めている。

- ②久米田高校の生徒が本校の文理課題研究発表会で発表した。

今後は、「プロジェクト”Nova”」の取組みを継続して、卓越した能力をもつ科学技術人材の育成をめざすとともに、今回のような他校生徒との交流などの取組みを充実・発展させていくことで、本校が泉州地域の探究学習の拠点としての役割を果たせるよう取り組んでいきたい。

【質疑応答】

(委員)(竹村様) プロジェクト”Nova”の発表はどのような形か。

(学校)(首席) 全体で 20 名程度の生徒が 2～3 人のグループを作り、グループごとに来年度自分たちが研究活動を行う研究テーマについて発表した。

3 来年度の予定(案)

- 第 1 回 令和 5 年 5 月 17 日(水) 15:00～
- 第 2 回 令和 5 年 10 月 11 日(水) 15:00～
- 第 3 回 令和 6 年 2 月 14 日(水) 15:00～

4 最後に

(校長)

今回、様々な視点からいただいた意見を、来年度の教育活動に活かしていきたい。行事や取組みを検証していく中で、これまでの取組みを 2 つやめ、新たなことを 1 つ取り入れるぐらいのイメージで、スクラップ&ビルドしながら教育活動の充実を図っていきたい。新たにやりたいことは多くある。

本校の生徒は純朴で素直な印象は変わらないが、一方でもっとパワフル・エネルギッシュであってほしい。学校として生徒の学力を向上させるのはもちろんだが、学力だけでなく人間力も高めることができる取組みを行ってほしい。

今後も、様々なご意見をいただきたい。よろしくお願いします。